

R8.1



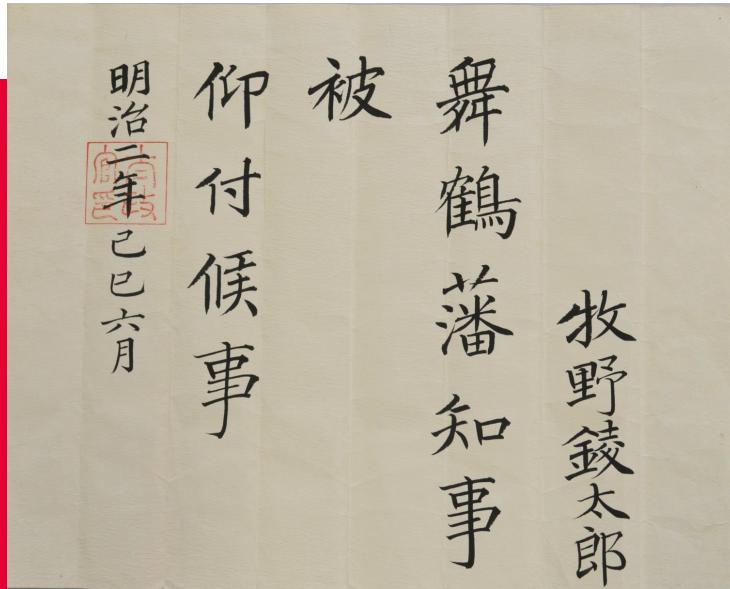
あけましておめでとうございます
本年もどうぞよろしくお願ひいたします

舞鶴ふるさと発見館

舞鶴市郷土資料館だより

★舞鶴市内の学生は入館無料です★

今月の一品
学芸員が選ぶ



耳に馴染んだ舞鶴という地名はいつから使われていたのでしょうか？

まいづる はんちじ じれいしょ

「舞鶴藩知事辞令書」

実は舞鶴という名がついたのは案外新しく明治2（1869）年からなのです。同年に版籍奉還が行われるまで、舞鶴は田辺と呼ばれていました。しかし紀伊（今の和歌山県）にも山城（今の京都府南部）にも「田辺」という地名があることから、明治政府は地名の変更を命令しました。そこで藩内で相談し田辺城の別名「舞鶴城」を採用！田辺藩から舞鶴藩となり、10代目藩主牧野彌成は、「舞鶴藩知事」になりました。この辞令書は初めて「舞鶴」が使われた文書です。

★版籍奉還とは、江戸時代のお殿様たちが治めていた土地と人民を、すべて明治政府（天皇）に返した手続きのことです。



ミュージアム

トーク

1/18 (日)

13:30~14:30

舞鶴のお地蔵さんについて

サロンスペースにて実施

★参加費無料

★問い合わせは郷土資料館（75-8836）へ

サロンスペース展示

～舞鶴のお地蔵さんを訪ねて～

寺田美喜雄さんの写真展を開催いたします。コツコツと舞鶴を訪ね歩いて撮りためたものです。



城下町コーナーでお正月！



1月の城下町コーナーでは城下町の商家でお正月に飾られた掛け軸を展示します。西地区の竹屋には高野川の水運を利用して商家が立ち並んでいます。その竹屋に店を構え酒屋や油屋などで栄えた近藤家に伝來した正月の掛け軸をご紹介します。

糸井文庫コーナー

1月のテーマ

糸井文庫は糸井仙之助が集めた丹後関連資料（約2200点）です。中でも丹後の伝説を描いた浮世絵が約200点あります。そこで、当館では毎月テーマを決めて糸井文庫の浮世絵を紹介しています。

七福神やご長寿さんが勢揃い！

福を重ねて新しい年を迎えましょう！

福
來
た
る



えどのはな　かございく　うたがわくにさだ
浮世絵「江戸の花 篠細工」歌川国貞 糸井文庫

みせもの
江戸時代は見世物小屋が大はやり！見世物はお祭りや大きなお寺の近くなど、人がたくさん集まる場所にテントや小屋を建てて行われていました。そこでは「びっくりするもの、珍しいもの、すごい技」が見られたのです。その一つが、竹などを編んで作る大きな「籠細工」！頬杖をつく酒呑童子と、ひょっこり覗く緑色の鬼が籠細工です。あれっ？ 画面の右にはなぜか布袋さんが座っています。これが源頼光でしょうか？刀でなくにっこり笑ってやっつけるのかな？

★西舞鶴駅から徒歩10分★



舞鶴ふるさと発見館（舞鶴市郷土資料館）

開館時間 9:00～17:00 （最終入館16:30まで）

今月の休館日

1月1日（木）から1月3日（土）まで

5日（月）・13日（火）・14日（水）・19日（月）・26日（月）

TEL 624-0853

舞鶴市字南田辺1番地

西総合会館 1F北側

TEL 0773-75-8836 FAX 0773-77-1314

入館料

大人 100円

舞鶴市外の学生
50円

★舞鶴市内に居住または通学する学生は入館無料です★